

2017(H29)シカ年度実行計画の実施結果
(確定版)

2017(H29)シカ年度実行計画(管理事業)一覧

管理手法	遺産地域		隣接地域
	エゾシカA地区	エゾシカB地区	
防御的手法	<p>特定管理地区(知床岬)</p> <p>■既存の侵入防護柵の維持・補修 概要:既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所:知床岬 事業時期:通年 実施主体:環境省、林野庁 (既存侵入防護柵)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亜高山高茎草本群落(20m×20m) ・ガンコウラン群落(15m×15m) ・山地高茎草本群落(エオルシ) ・林野庁森林調査区(1ha) 	<p>■既存の侵入防護柵の維持・補修 概要:既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所:幌別ー岩尾別地区 事業時期:通年 実施主体:林野庁、斜里町 (既存侵入防護柵)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幌別地区林野庁森林調査区(1ha) ・岩尾別カシワ林林野庁森林調査区(林野庁H20, 21, 22設置)(3.55ha) ・しれとこ100平方メートル運動地内の各種侵入防護柵 <p>■侵入防護柵の新規設置 概要:侵入防護柵の新規設置 場所:ルサー相泊地区 事業時期:秋 実施主体:羅臼町・知床財団・環境省(三者協定) (新規侵入防護柵)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルサー園地実生保護柵(10m×10m) <p>■樹皮食い防止対策の実施 概要:ポリエチレン製ネットによる既存単木保護木(オヒョウ、イチイ、ミズキ、アオダモ等、計約800本)の補修等 場所:幌別ー岩尾別地区(「100平方メートル運動の森・トラスト」(斜里町)) 事業時期:春～秋 実施主体:斜里町</p>	<p>■ウトロ市街地侵入防護柵の維持管理を含めた被害対策 概要:ウトロ市街地を取り囲む侵入防護柵(延長距離4.1km)の維持管理および被害対策(柵内のシカの捕獲を含む) 場所:ウトロ市街地 事業時期:通年 実施主体:斜里町</p> <p>■既存の侵入防護柵の維持・補修 概要:既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所:ウトロ地区(イチイ林木遺伝資源保存林) 事業時期:通年 実施主体:林野庁</p>
越冬環境 改変		<p>■開拓跡の未立木地の森林化作業 概要:しれとこ100平方メートル運動地内での、開拓跡未立木地の森林化作業(植樹苗の保護育成等)を引き続き実施 場所:幌別・岩尾別地区 事業時期:春～秋 実施主体:斜里町</p> <p>■道路法面牧草面積の拡大抑制 概要:工事実施にあたっての協議や許認可の際に、新たな牧草面積の拡大を可能な限り抑制するよう指導に努める 場所:特に国立公園内のシカ越冬地周辺の道路沿い 実施主体:環境省</p>	
個体数調整	<p>■仕切柵の維持管理 概要:仕切柵の維持管理 場所:知床岬 事業時期:通年 実施主体:環境省</p> <p>■個体数調整事業 概要:越冬期および春期におけるシカの捕獲 場所:知床岬 事業時期:2018年3, 4, 5月 実施主体:環境省</p>	<p>■ルサー相泊地区における個体数調整事業 概要:越冬期におけるシカの捕獲 場所:ルサー相泊地区 事業時期:2018年1～3月 実施主体:環境省</p> <p>■幌別ー岩尾別地区における個体数調整事業 概要:越冬期および春期におけるシカの捕獲 場所:幌別ー岩尾別地区 事業時期:2018年1～5月 実施主体:環境省</p>	<p>■銃による個体数調整捕獲 (羅臼市街周辺ー羅臼町、ウトロ高原ー斜里町、真鯉地区ー林野庁)</p> <p>■囲いワナによる個体数調整捕獲(ウトロ・真鯉地区ー斜里町・林野庁、羅臼町春苺古丹地区ー林野庁)</p> <p>■箱ワナによる個体数調整捕獲(ウトロ地区ー斜里町、春苺古丹地区ー林野庁)</p> <p>■吹き矢による個体数調整捕獲(ウトロ地区ー斜里町)</p> <p>■狩猟による個体数調整(北海道)</p>

2017(H29)シカ年度実行計画(モニタリング調査)一覧

		調査項目	遺産地域		隣接地域	
			エゾシカA地区	エゾシカB地区		
植生	詳細調査	簡易的手法による指標種の回復量調査	■ルシヤ地区の森林および草原 概要:長距離ライン(380-600 m)で指標種の開花数をカウント 時期:8月 実施主体:環境省	■知床岬台地上の森林および草原 概要:長距離ライン(550-1500 m)で指標種の開花数をカウント 時期:8月 実施主体:環境省	■幌別-岩尾別地区およびルサー相泊地区の森林および草原 概要:長距離ラインで指標種の開花数をカウント 時期:8月 実施主体:環境省	
		植生影響調査(森林植生・草原植生)	■ルシヤ地区固定調査区モニタリング調査 概要:固定調査区9区で植生調査 時期:8月 実施主体:環境省	■知床岬台地上ササ調査区 概要:ササ高・被度を調査し採食圧を把握。 時期:2017年度は実施なし 実施主体:環境省 ■知床岬台地上イネ科草本等調査区(金属ケージ11カ所) 概要:イネ科草本等シカの餌植物の採食圧の変化を把握。 時期:2017年度は実施なし 実施主体:環境省	■ルサー相泊地区固定調査区モニタリング調査 概要:2011年に設定した固定調査区のモニタリング調査 時期:2017年度は実施なし 実施主体:環境省 ■幌別-岩尾別地区固定調査区モニタリング調査 概要:2012年に設定した固定調査区6区のモニタリング調査 時期:8月 実施主体:環境省	
		植生保護柵を用いた回復過程調査(森林植生・草原植生)		■亜高山高茎草本群落侵入防護柵(20×20m)内外(E3_Rc) ■ガンコウソウ群落侵入防護柵(15×15m)内外(E2_Ac) ■山地高茎草本群落侵入防護柵(E1_Ec) 概要:草原植生の回復状況を調査 時期:2年に1回(2017年度は実施なし) 実施主体:環境省 ■森林1ha柵内外 概要:森林植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:林野庁	■幌別地区侵入防護柵内外 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:林野庁 ■幌別・岩尾別:100平米運動地各種侵入防護柵内外 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:斜里町	
	広域的調査	植生影響調査(森林植生・海岸植生・高山植生)	■遠音別岳地区調査 概要:シレットコスミレ等の高山植生の被食状況等を調査 時期:8月 実施主体:環境省 ■東岳シレットコスミレ採食状況調査 概要:シレットコスミレの株数・採食痕調査 時期:7月 実施主体:環境省	■広域森林調査 概要:植生調査(草本含む)、被食状況調査 知床岬地区、幌別-岩尾別地区 時期:8月 実施主体:林野庁、一部環境省	■広域森林調査 概要:植生調査(草本含む)、被食状況調査 春茹古丹地区(高標高) 時期:8月 実施主体:林野庁、一部環境省	
		在来種分布調査				
エゾシカ個体数・個体数指数	詳細調査	エゾシカ主要越冬地におけるカウント調査		■航空カウント 概要:ヘリからの越冬個体数把握(旋回撮影) 時期:2~3月 実施主体:環境省	■ルサー相泊:ライトセンサス 概要:ライトセンサス調査(岩見橋~相泊:調査距離10.2km) 時期:春、秋 実施主体:羅臼町 ■幌別・岩尾別:ライトセンサス 概要:幌別・岩尾別地区のライトセンサス調査(調査距離9.3km) 時期:春、秋 実施主体:斜里町	■ウトロ-真鯉:日中センサス 概要:日中センサス(調査距離約10km) 時期:1~3月 実施主体:知床財団 ■羅臼町峯浜:ライトセンサス 概要:ライトセンサス(調査距離約10km) 時期:10月下旬 実施主体:北海道 ■真鯉、春茹古丹:カメラトラップ 概要:3~4kmの範囲内に各6台程度の自動撮影装置を設置 時期:真鯉(オベケブ林道)6、9月、春茹古丹林道7、10月 実施主体:林野庁
		個体群の質の把握に関する調査・データ蓄積			■ルサー相泊:自然死亡状況把握調査 概要:シカの性齢別の自然死亡状況を把握。 時期:冬期~春期 実施主体:羅臼町 ■幌別・岩尾別:自然死亡状況把握調査 概要:シカの性齢別の自然死亡状況を把握。 時期:冬期~春期 実施主体:斜里町	■ウトロ-真鯉:自然死亡状況把握調査 概要:シカの自然死亡状況を把握。 時期:冬期~春期 実施主体:斜里町
	広域的調査	越冬群分布調査	■知床半島全域(or 遺産地域内全域):広域航空カウント 概要:ヘリからの越冬個体数把握 時期:5年に1回(遺産地域内は毎年2~3月) 実施主体:環境省			
		季節移動調査	■ルシヤ地区行動圏・季節移動調査(4年目) 概要:GPS首輪装着済み14頭の行動圏を把握(2頭は脱落もしくは死亡疑い) 時期:通年 実施主体:環境省			
土壌浸食	詳細調査	土壌浸食状況調査				
	広域的調査	土壌浸食状況広域調査	■土壌浸食状況の広域モニター(当面は広域植生影響調査の中で、林床の裸地面積等の変動を調査することで簡易的に把握)			
生態系への影響	詳細調査	陸生鳥類生息状況調査	2017年度は実施なし		2017年度は実施なし	

個体数調整の中長期目標 ver.201811

※ は実績値、 は目標値

※特定管理地区全体の面積(7km²)→モニタリングユニットM00(3.2km²)に発見頭数・発見密度等をすべて変更

	知床半島エゾシカ保護管理計画→管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期	備考	
	実行計画		2010シカ年度	H2011シカ年度	2012シカ年度	2013シカ年度	2014シカ年度	2015シカ年度	2016シカ年度		2017(H29)シカ年度
A 知床岬	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット M00)	上段:発見頭数(≒実数?) 下段:発見密度(頭/km2) (上段値÷3.2km2)	246 76.9	265 82.8	第1段階目標: 5頭/km2以下 35頭/7km2(16頭/3.2km2)以下				第3期目標: 5~10頭/km2以下 (16~32頭/3.2km2)	1~2月(捕獲実施前)に実施 対象範囲=モニタリングユニット M00:約3.2km2 旧第1段階目標:1980年代レベル (知床岬先端部のみの航空カウントで5頭/km2以下)	
		目標	—	—	75 23.4	87 27.2	139 43.4	57 17.8	88 27.5	40 12.5	
	II.捕獲頭数 (M00)	目標	—	—	45 (航空カウント値の80%)	30 (航空カウント値-29)	110 (航空カウント値-29)	34 (航空カウント値-29)	59 (航空カウント値-29)	20	自然増加率0.2とする。翌年の捕獲前生息数35頭以下となる数(〜H28)。第3期中に16~32頭以下となる数(H29~)
		実績 (うちメス成獣)	57 (20)	216 (133)	32 (4)	9 (2)	88 (43)	10 (2)	37 (9)	8 (2)	6月分の捕獲実績は前シカ年度分に含めた
	III.捕獲後推定値	上段:推定生息頭数 下段:推定生息密度(頭/km2)	189 59.1	49 15.3	43 13.4	78 24.4	51 15.9	47 14.7	51 15.9	32 10.0	
捕獲手法・検討事項		○ヘリによる厳冬期捕獲	○仕切柵設置 ○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船1回	○仕切柵を活用した捕獲 船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船4回(うち2回は無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(うち1回は無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(2回とも無雪期の宿泊捕獲)	2007(H19)シカ年度~個体数調整開始 2011(H23)シカ年度 仕切柵設置 広義の知床岬地区(U-01+11)でのヘリ生見密度5頭/km2以下が旧第2段階目標	
B ルサー 相泊	知床半島エゾシカ保護管理計画→管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期	備考	
	実行計画		2010シカ年度	H2011シカ年度	2012シカ年度	2013シカ年度	2014シカ年度	2015シカ年度	2016シカ年度		2017(H29)シカ年度
	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット R13)	上段:生息頭数(指数) 下段:ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)	156 8.72	—	第1段階目標: 89以下(R13-U13s) 5以下				第1段階目標(高標高*含む): 123以下(R13) 5以下	第3期目標(高標高*含む): 123頭以下(R13) 5頭/km2以下	面積(モニタリングユニット R13)=24.68km2 * R13-U13s(6.81km2)=17.87km2 旧第1段階目標:5頭/km2(ヘリ発見密度)
		秋 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	181 10.13	105 5.88	61 3.41	141 5.71*	70 2.84*	48 1.94*	
	II.ライトセンサス	秋 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	4.0	2.3	2.9	0.8	災害中止	1.4	調査距離10.2km ショウジ川~アイダマリ川
		春 個体数指数(頭/km)	19.4	9.5	13.2	6.2	5.5	5.4	災害→距離短縮	7.1	調査距離10.2km ショウジ川~アイダマリ川
III.標識再捕獲法によるメス成獣推定個体数(捕獲後春)		327.7±94.2	184.0±46.5	—	—	—	—	—	—		
IV.捕獲頭数	目標	—	—	300	220	215	210	20+α	80		
	実績	125	188	78	208	88	79	13(+66)	78		
捕獲手法・検討事項		○囲いワナ1基 ○定点SS	○囲いワナ2基 ○巻狩り ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○くくりワナ (更にR12で 船捕獲)	○囲いワナ1基 ○箱ワナ6基 ○くくりワナ18基	2009(H21)シカ年度~個体数調整開始	
C 幌別 岩尾別	知床半島エゾシカ保護管理計画→管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期	備考	
	実行計画		2010シカ年度	H2011シカ年度	2012シカ年度	2013シカ年度	2014シカ年度	2015シカ年度	2016シカ年度		2017(H29)シカ年度
	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット S04)	上段:生息頭数(指数) 下段:ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)	1,257 43.2	—	第1段階目標: 360以下 12.4以下				第2段階目標: 145以下 5以下	第3期目標: 145頭以下(S04) 5頭/km2以下	面積(モニタリングユニット S04)=29.08km ² 旧第1段階目標:2003年水準ヘリカウント値 旧第2段階目標:5頭/km2(ヘリ発見密度)
		秋 個体数指数(頭/km)	8.5	7.8	306 10.5	289 9.9	184 6.3	176 6.1	134 4.6	56 1.9	
	II.ライトセンサス	秋 個体数指数(頭/km)	8.5	7.8	3.6	2.7	2.3	2.9	1.6	1.9	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km
		春 個体数指数(頭/km)	11.8	4.5	6.6	9.7	3.9	9.1	5.1	5.2	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km
III.捕獲頭数	目標	—	—	1,060	400	165	130	100	85		
	実績	0	452	418	207	177	106	102	109		
捕獲手法・検討事項			○囲いワナ1基 ○くくりワナ ○流し猟式SS(冬)	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS (秋・冬・春)	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(冬) ○大型囲い柵	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵	○囲いワナ1基 ○箱ワナ ○流し猟式SS(冬・春) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いワナ1基 ○箱ワナ ○流し猟式SS(冬・春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	2011(H23)シカ年度~個体数調整開始 2013(H25)シカ年度 岩尾別地区大規模囲い柵整備	

実施結果位置図

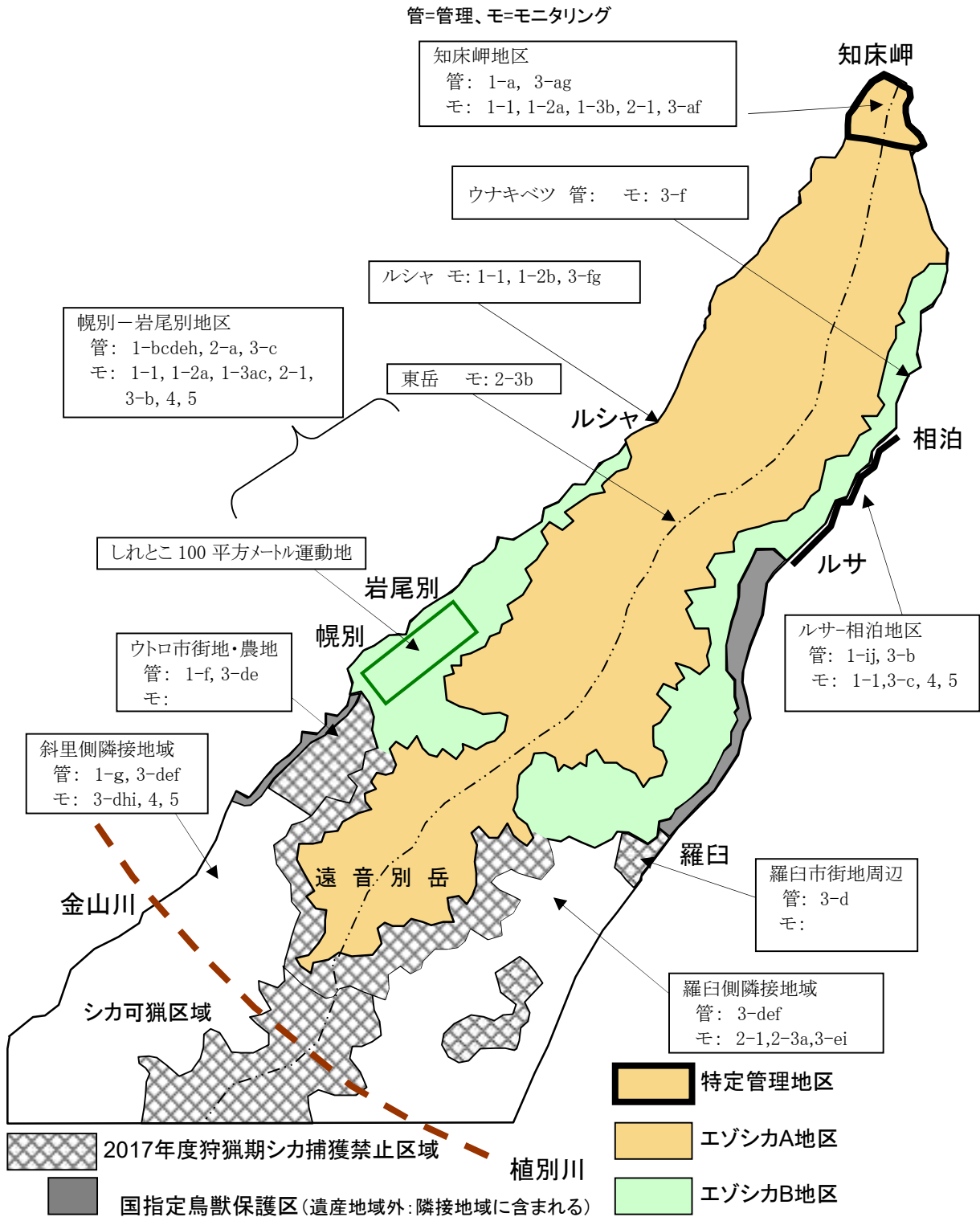


図 5-1. 関連地域における管理事業・モニタリング事業の位置。番号・記号は本文に対応。

(対象地が広範に分布するものについては記載せず)

管理事業 (特=特定管理地区、A=エゾシカ A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地域)

1. 防御的手法

a. 知床岬侵入防護柵管理(特: 環境省・林野庁)

2017 年 10 月に補修を実施(林野庁柵)。

(2018 年 10 月 11 日に羅臼側 E3_Rc(亜高山高茎草本群落侵入防護柵)のヒグマに掘られた箇所を補修(※2018 シカ年度))。

b. 幌別侵入防護柵管理(B: 林野庁)

2017 年 6 月、9 月、11 月に踏査及び補修作業を実施。

c. 運動地侵入防護柵管理(B: 斜里町)

・既存各防護柵において老朽化した支柱の交換等の補修を実施。

d. 岩尾別川河畔林侵入防護柵管理(B: 斜里町)

・夏季に台風の影響で柵の一部が破損したが、修繕済み。

e. 運動地樹皮ネット管理(B: 斜里町)

・劣化したネットの巻き直し等、既存保護木の維持作業を実施。

f. ウトロ市街地侵入防護柵管理(隣: 斜里町)

・冬季の雪圧や倒木による柵の歪みがあり、補修実施。

g. イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵管理(隣: 林野庁)

・2017 年 6 月、9 月、10 月、11 月に踏査及び補修作業を実施。

・2017 年 5 月に踏査、6 月に補修作業実施予定。

h. 岩尾別カシワ林侵入防護柵管理(B: 林野庁)

・2017 年 6 月、9 月、11 月に踏査及び補修作業を実施。

i. ルサ-相泊の侵入防止電気柵管理(B: 羅臼町)

・2015 年までにキキリベツから相泊の約 8km 区間および羅臼市街地の南北に電気柵を設置。維持管理を実施。主な目的はヒグマの侵入防止だが、エゾシカにも効果あり。

j. ルサ園地の実生保護柵設置(B: 環境省・羅臼町・知床財団 3 者協定)

・2017 年 10 月に実生をシカ採食圧から保護するための 10m×10m の柵を、ルサ川右岸の環境省所管地に新設。

2. 越冬環境改変

a. 運動地森林化作業(B: 斜里町)

・防鹿柵内外への中型～大型苗の植え替え等を実施。

b. 道路等法面牧草面積の抑制(B: 環境省)

・2017 年度は新たな牧草法面を造成しない、現地表土を使用する指導を行った工事案件は無し(工事の提案段階で既に現地表土を使用する施工案になっていることが多い)。

3. 個体数調整

a. 知床岬 個体数調整事業(特: 環境省)

- ・2018年3月にヘリコプターで岬入りし、宿泊を伴う捕獲を1回実施して4頭を捕獲。同年4月と5月に船で岬入りし、宿泊を伴う捕獲を各1回、合計2回の捕獲作業で、4頭を捕獲(2018年5月末までに計8頭を捕獲)。

b. ルサー相泊地区 個体数調整事業(B: 環境省)

- ・ルサ川河口～相泊周辺のくくりわなで、2018年1～3月に44頭を捕獲。
- ・ルサ川河口～相泊周辺の箱わなで、2018年1～3月に26頭を捕獲。
- ・相泊の囲いわなで、2018年2～3月に8頭を捕獲。
- ・3つの捕獲方法により、計78頭を捕獲した。

c. 幌別-岩尾別地区 個体数調整事業(B: 環境省)

- ・岩尾別地区の仕切柵を囲いわなとして使用し、2018年1～4月に8頭を捕獲。
- ・幌別川河口の囲いわな(体重計式小型囲いわな)で2018年1～3月に6頭を捕獲。
- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの約0.6kmの通路沿線で流し猟式シャープシューティングを2018年1～3月に12回実施し、22頭を捕獲(シカの反応変化に応じて途中から誘引狙撃 = 待機狙撃に切り替え)。
- ・岩尾別地区に4基、幌別地区に4基の箱わなを設置し、2018年1～3月に53頭を捕獲。
- ・岩尾別地区の台地上において餌付け誘引による狙撃を2018年3～4月に11回実施し、7頭を捕獲。
- ・しれとこ100平方メートル運動地の作業道沿線で流し猟式シャープシューティングを2018年5月に5回実施し、13頭を捕獲。
- ・6つの捕獲手法により、計109頭を捕獲した。

d. 銃による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・斜里町では2017年6月～2018年5月にウトロ高原農地において15頭、半島基部農地において2017年6～9月に52頭、2018年4～5月に56頭を捕獲した。この他、2017年8月にウトロ市街地柵内において、麻酔銃で1頭捕獲。
- ・羅臼町では町有林における巻き狩りと流し猟により、2017年9月に32頭、2018年2～5月に111頭、計143頭を捕獲(羅臼町及び町鳥獣被害防止協議会)。
- ・林野庁では、2018年3月に、遠音別地区において巻き狩りで4頭、真鯉地区において巻き狩りで3頭を捕獲。

e. 銃器以外による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・林野庁では、2018年1～5月に、ウトロ地区において囲いわな3基で28頭、遠音別地区において囲いわな2基で16頭、真鯉地区において囲いわな1基で9頭、箱わな6基で5頭、春苺古丹地区において囲いわな1基で9頭、箱わな3基で7頭を捕獲。以上には職員実行を含む。

- ・斜里町、林野庁及び(株)知床エゾシカファームで協定を結んだ囲いわな(三段滝)では、2017 シカ年度は捕獲実績なし。
- ・斜里町では、くくりわなで 2017 年 8 月に半島基部農地において 1 頭捕獲、2017 年 12 月にウトロ高原において 1 頭捕獲、2018 年 3～4 月にウトロ市街地柵内において箱わなで 5 頭捕獲。2018 年 5 月にウトロ市街地柵内で吹き矢により 1 頭捕獲。
- ・羅臼町では、2017 年 11 月～2018 年 3 月に峯浜町地区の牧草地においてくくりわな 5 基を設置し、捕獲なし。また、羅網等の原因により 5 頭を安楽殺処置。

f. 狩猟(隣: 北海道)

- ・斜里町内の隣接地域において狩猟での効率的な捕獲を検討するため、可猟期間に中断期間を設定した。2017 年度の結果はとりまとめ中(北海道)。

g. 仕切柵の維持管理(特: 環境省)

- ・知床岬の捕獲支援用仕切柵の破損箇所の確認を実施。
- ・2017 シカ年度は補修作業の実施なし。

モニタリング調査(特=特定管理地区、A=エゾシカ A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地域)

1. 植生の詳細調査(シカ個体数調整実施地区 + ルシヤ地区)

1-1. 簡易的な手法による指標種の回復量調査(特・A・B: 環境省)

- ・長距離ラインで指標種の開花数をカウントする調査を 4 地区(知床岬・幌別-岩尾別・ルサ-相泊・ルシヤ)で実施したほか、2014 年に設定した詳細調査ラインの追跡をした。
- ・森林環境の 23 種、草原環境の 61 種について指標としての評価をした。森林環境では開花個体数の増加が見られた。草原環境では増加傾向ははっきりしなかったが、詳細調査では岬地区で増加している種が多かった。

1-2. 植生影響調査(森林植生、草原植生)(特・A・B: 林野庁、環境省)

a. 森林植生調査

- ・岬地区 6 区、幌別-岩尾別地区 6 区の追跡調査を実施した。
- ・下枝や稚樹の回復はほとんど見られなかったが、ササの被度と林床植生の嗜好種の回復傾向はわずかに見られた。

b. 草原植生調査

- ・ルシヤ地区の簡易指標調査に合わせて、方形区 9 区の追跡調査を実施。
- ・ササ類や指標となりうる過去に生育していた種の被度は 2014 年までやや回復傾向にあったが、今年度はササ類以外は減少しており、ここ数年増加しているエゾシカの影響と推定される。

1-3. 植生保護柵を用いた回復過程調査(森林植生、草原植生)(特・B: 林野庁、斜里町)

a. 幌別地区侵入防止柵内外(B: 林野庁)

- ・柵設置から14年が経過。下枝被度は、柵内では回復が見られていたが、ネズミ類の発生の影響もあり2017年は回復傾向が見られなかった。柵外では下枝が2013年以降わずかに確認されている。
- ・広葉樹稚樹密度は柵内では、この4年間で回復してきた密度が低下した。ネズミ類等エゾシカの採食以外の要因も影響するため長期の追跡が必要。柵外では稚樹の更新はほとんど見られず、回復の評価はできなかった。

b. 知床岬地区侵入防止柵内外(特: 林野庁)

- ・柵設置から13年が経過。下枝被度は、柵内では徐々に回復する傾向が見られた。柵外では下枝が2013年以降わずかに確認されている。
- ・広葉樹稚樹密度は柵内では順調な増加が見られ、天然更新の回復が期待できる。柵外では稚樹の更新はほとんど見られず、回復の評価はできなかった。

c. 幌別一岩尾別100平米運動地各種侵入防止柵内外(B: 斜里町)

- ・運動地全体では、各所にてこれまで目につくことがなかった実生や草本の姿を確認する機会が増加している。
- ・柵外に樹皮保護ネットを巻かずに植栽している75本の中・大型苗では、計12本に樹皮の被食を確認した。なお、2018年5月に植栽した35本のうち、オヒョウ等4本が即日のうちに被食されたため、樹皮保護ネットによる保護を行った。

2. 植生の広域的調査

2-1. 植生影響調査(森林植生)(特・A・B・隣: 林野庁、環境省)

- ・半島内の森林固定調査区70プロットのうち、知床岬、幌別-岩尾別、春苧古丹(高標高)の計13区で毎木調査、下枝、稚樹、林床植生調査を実施(結果は1-2aを参照)。

2-2. 植生影響調査(海岸植生)(A: 環境省)

- ・2017年度は未実施。

2-3. 植生影響調査(高山植生)(A: 環境省)

a. 高山植生影響調査

- ・前年度に実施できなかった遠音別岳地区の2箇所を追跡調査を実施。
- ・シレットコスミレは平均被度がやや減少しているが、エゾシカの食痕は認められなかった。一方、雪田周辺では低木類にエゾシカの影響が強く見られた。

b. 東岳シレットコスミレ採食状況調査 ※環境省職員による調査: 東岳付近

- ・2017年6月29日に調査を実施。調査区域内で確認した165株のうち、エゾシカによる被食は2株であった。

3. エゾシカ個体数・個体数指数

a. 知床岬 航空カウント調査(特: 環境省)

- ・2018年3月7日の午後に先端部巡回撮影調査を実施し、知床岬先端部の台地上にひろがる草原上に4群49頭を確認。前年度の発見数79頭から減少。オス成獣が優勢。

b. 幌別・岩尾別ライトセンサス(B: 斜里町)

- ・2017年秋は幌別、岩尾別ともに密度指標値が1.9頭/kmであり、前年同期と比較し幌別、岩尾別ともに微増。子連れ率(百メス比)はそれぞれ37.9、26.9となり、前年同期(29.4、20.0)から幌別、岩尾別ともに増加。
- ・2018年春は幌別、岩尾別がそれぞれ6.9頭/km、3.3頭/kmとなり、前年同期(6.7、3.3)と比較して横ばい。百メス比はそれぞれ31.1、17.6となり、前年同期(25.0、24.0)と比較して幌別は増加し、岩尾別は減少。

c. ルサー相泊ライトセンサス・日中センサス(B: 羅臼町)

- ・2018年春のライトセンサスは、4月下旬に5夜連続で計5回実施。密度指標値7.1頭/km、百メス比は18.1。
- ・2018年春のライトセンサスは、10月下旬に計5回実施。密度指標値2.1頭/km、百メス比は19.4。

d. 真鯉 日中センサス(隣: 知床財団)

- ・2018年1～3月の狩猟中断期間または狩猟期終了後に計6回実施。最大発見頭数は40頭(2018年3月18日)であった。密度指標値は3.3頭/km。前年の最大数(3月26日に121頭、10.1頭/km)から減少。
- ・確認頭数は2012(H24)シカ年度以降、6年連続で減少。

e. 羅臼峯浜ライトセンサス(隣: 北海道)

- ・2018年10月15日に猟友会羅臼部会が実施(北海道から北海道猟友会への委託業務)
- ・牧草地コース2.2頭/km、森林コース0.1頭/km(2016年はそれぞれ5.1、0.1頭/km)。

f. ヘリコプターによる航空カウント調査(A・特・B: 環境省)

- ・2018年3月上旬の4日間に遺産地域内(計10区画)を調査し、92群659頭を発見。下記の括弧内のM00などはモニタリングユニットを示す。

・知床岬地区(M00):	40頭(前年比55%減、-48頭)
・ルサー相泊地区(R13):	48頭(前年比31%減、-22頭)
・幌別-岩尾別地区(S04):	56頭(前年比42%減、-78頭)
・ルシャ地区(S02):	333頭(前年比20%増、+56頭)

g. ルシャ地区季節移動・行動圏調査(A: 環境省)

- ・2014年6～11月および2016年5月上旬にGPS首輪を装着した計14頭のエゾシカ(メス成獣)の行動を追跡調査。2頭が2017年6月の出産期に羅臼側のルサー相泊地区に移動し、その後ルシャ地区に戻った。当該個体の6月以外の時期および残り13頭は、ルシャ地区内の狭い範囲に通年定着していた。

・14頭のうち2頭の首輪が2017年に脱落。

h. 幌別地区・遠音別地区行動圏調査(B・隣: 知床財団)

・2015年2月にGPS首輪を装着し、同年の夏に電池切れとなった2頭のエゾシカ(メス成獣)について、囲いわな・箱わなによる再捕獲・首輪回収をひきつづき試みたが、捕獲できず。

i. 真鯉・春茹古丹カメラトラップ調査(隣: 林野庁)

・斜里町真鯉のオペケブ林道(2017年6,9月)に5台、羅臼町の春茹古丹林道(2017年7,10月)に6台の自動撮影カメラを設置し、エゾシカの出現状況を調査した。

4. シカ自然死亡 ルシヤ・知床岬・幌別-岩尾別・ルサー相泊・真鯉(全域: 知床財団)

・2017シカ年度は知床岬、ルシヤにおいてエゾシカの自然死体調査は実施しなかった。

・2017シカ年度に斜里町及び羅臼町の業務において確認された自然死亡は以下。

・幌別-岩尾別: 0体

・真鯉: 0体

・ルサー相泊: 0体

5. エゾシカ捕獲個体の体重等データ収集体制の確立(B・隣: 環境省、林野庁)

・環境省及び林野庁が知床で捕獲したシカについて、エゾシカ利活用施設において体重、後足長の計測および妊娠の有無等を確認するとともに、下顎骨を採取し、知床財団に引き渡す体制を継続(4年目)。

6. 鳥類相モニタリング調査(A: 環境省、酪農学園大学)

・知床岬および幌別-岩尾別地区で2014年繁殖期に録音調査を実施(酪農大独自)。結果は投稿準備中。

・2017年は調査実施なし。